(一社) 沖縄県中小企業家同友会 広報誌

ニライみふぃ

2025年 (令和7年) 12月号 453号

21世紀に輝く No.246

教育で変える。教育を変える
子供に自分の仕事を自慢できる会社を

㈱ Edift
取締役
知念 直明 氏
< 浦添てだこ支部>

同友会ってどういう会？

入会申込フォーム　魅力動画　行事案内　Facebook

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205㈹ FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

21世紀に輝く No.246

知念氏

教育で変える。教育を変える
子供に自分の仕事を自慢できる会社を

爽やかな笑顔の優しい好青年の㈱Edift の知念直明さんを紹介します。

㈱ Edift は二〇二〇年に太田守尚代表が起業し十二月で五周年を迎えます。

主な事業は企業の組織開発、人事制度の代行業務等。現在社員は三人。

代表が外資系企業の人材開発部で培ったノウハウを沖縄に還元し、人材育成業界の風土を変えたいという思いから設立しました。

■企業に寄り添った提案をしたい。

知念さんは、当時、福利厚生や評価制度等のツールが商品のサラリーマンでした。ツールは一部の課題解決にはなりますが、根本的な課題解決にはならないとモヤモヤしていました。そんな時、太田代表に出会い、経営者が「こういう会社にしたい」という目指す姿に合わせて提案するスタイルがより企業の力になると思い、2年半前に取締役として入社しました。

知念さんの主な業務は企業の採用代行や人事担当の業務委託、リーダー向けの研修等です。企業に合わせたカスタマイズ型なので、聞き取りから始めて、現状把握、経営者や管理職、社員との面談を行い、ニーズ分析や企業の課題を抽出して経営者に提案。課題が明確でない場合は研修で解決しないことも多く、その場合には今は研修じゃないとしっかり伝えるようにしています。

■教育で変える。教育を変える

理念は「教育で変える。教育を変える」を掲げています。インプットだけで成長するわけではなく、自社の課題を理解し、学び、実践を繰り返してこそ良い成長に繋がる。実践に繋げて課題を解決する風土を広げて行くのが使命と考えています。

中小企業は専門の人事部の配置が難しく、人事部を業務委託してもらって伴走支援をします。目的は企業の自立。軌道に乗るまでは三年位かかります、定期的に社員さんと面談し、面談の結果を経営者に伝え、課題解決の方法を提案し、実践する間の伴走をしながら共に企業の課題解決に取り組むようにしています。

■迷ったらバリューに戻る

経営理念と同様に大事にしているのがバリューです。社内での会議や仕事において迷いが生じた時にはバリューに戻る。バリューに戻ると結局、前向きに挑戦するという選択をします。今後は新卒採用も考えていますが、基本的にはバリューを元に採用や人材育成を行ないます。理念経営を目指しているので理念に共感してくれる人を採用・育成したいと考えています。

■同友会に参加して・・・

同友会には入会していましたが、幽霊会員でした。知念さんが参加するようになって1年程経ちますが、役員をして感じる事は、経営者との関係性の構築のスピードが速いこと。経営者の学び・実践で企業の成長度が見られるのも魅力的です。

また、同友会の新人フォローアップ研修でメンタルについての講義を担当することができました。入社数ヶ月の新入社員にどう伝えるか社内で検討して資料を作りました。新入社員の抱えている今の辛さや苦しさが成長につながり前を向くような報告にしました。今回資料を作成する上で人材育成について、弊社の使命感を再認識することができ、同友会での学びから人の大事さを実感しています。

■沖縄を元気に

今後は県内で一番の人材育成のコンサル会社を目指します。一番にならない限り影響力を与えられない。Edift が関わった企業一社一社に、一人の人事のプロを作ることが夢です。そうすることで沖縄の企業が強くなります。知念さんは「子供に自信を持って自分の仕事を自慢できる会社を沢山作りたいし、働いている人達にそうあってほしい。そういう人が増えることで企業が良くなり沖縄が元気になる。沖縄を元気にしたい」と話しました。

今回の取材で知念さんの熱い思いが言葉や視線を通して強く心に響きました。カスタマイズ型伴走事業として県内 No. 1になることを期待しています。（(同)Green Star OKINAWA・友寄利律子）

外　観

《会社概要》

㈱ Edift

取締役 **知念 直明** 氏

〈浦添てだこ支部〉

住　所 / 南風原町兼城201番地6 neXtage M.K1階

ＴＥＬ / 050-8888-1262

事業内容/ 企業コンサルティング業

10月 新会員オリエンテーション

十月二十一日、新会員歓迎オリエンテーションが沖縄産業支援センターで開催されました。

新会員オリエンテーションは、毎月支部持ち回りで開催しており、十月は浦添てだこ支部設営が取り組みました。今回は新会員二名を含む十三名が参加しました。

経営体験報告は、浦添てだこ副支部長の㈱ハピスル・金城秀治郎社長が行いました。同友会で「一番学んでいる男」と冗談まじりに話しはじめ、同友会活動をする中で、自身と会社が成長していったが、その中でも会社の羅針盤づくり「経営指針作成講座」と社員と共に学べる「社長・社員共育塾」がとてもためになったと語りました。（事務局）

〈新会員のお二人〉

石川 隼人 氏（㈱石川設備工業　社長）（右）
給排水衛生設備工事、空調換気設備工事（浦添てだこ支部）

水口 奉哉 氏（インタラクティブ㈱　社長室長）（左）
デジタルマーケティング事業、人材事業（浦添てだこ支部）

第49回沖縄の産業まつり 「同友会輝く うちな～企業見本市」

十月二十四日～二十六日、奥武山公園・県立武道館にて、第四十九回沖縄の産業まつりが開催されました。今年もビジネス連携部会「ゆいま～る」は、「同友会輝くうちな～企業見本市」をアリーナ内ブースにて出展しました。

出展企業は（会員企業6社）

① 夢づくり沖縄　② ㈱グローバルリンク
③ ソムノクエスト㈱　④ ㈲大宮工機
⑤ ㈲コムテック創研　⑥ ㈱あしびっとワークス

同友会ブース

各社は、来場者に自社の商品やサービスをアピールしつつ、同友会ブースとして押し出しました。特に日曜日は、多くの来訪者で賑わい、体験ブースに人気が集まっていました。

（事務局）

茶論

十月四日、第十九回雇用就労支援フォーラムが、糸満市で開催されました。今年は基調講演に久遠チョコレート代表夏目浩次氏をお呼びすることができました。ドキュメンタリー映画で紹介されたこともあり、福祉関係の方、学校関係の方が多く参加されました▼夏目さんの経営は「福祉」と「ビジネス」を高いレベルで両立させ「仕事に人を合わせるのではなく、人に仕事を合わせる」という逆転の発想で、障がい者雇用の既成概念を打ち破っています。そして、誰も置き去りにしない社会の実現をめざしています▼小倉昌男（ヤマト福祉財団）氏の「福祉革命」と同様、夏目さんの障がい者の経済的自立をめざした革新的な取り組みは、福祉の世界に意識革命を起こしています▼温めれば何度でもやり直せる、チョコレートの特性から、失敗してもやり直せるという哲学に重ねています。諦めずに考え、もがき続けることが強さにつながると考えています▼現在七百人の従業員内六割が障がい者です。さらに子育て中ママやLGBTQの方が働く職場、平均賃金は一般的な就労継続支援事業所の十倍にあたる月十六万から十七万、障がいの有無に関わらず全ての人に「稼げる場所」を提供しています▼障がい者雇用というカテゴリーで語ることではなく、誰も置き去りにしない社会の実現、多様な人材の雇用と活躍を目指して稼ぐ仕組みをつく必要があります（仲本和美）

第19回 雇用・就労支援フォーラム

基調講演

一流のブランドを目指し、誰もが胸を張って働ける会社を！

十月四日、糸満市の「シャボン玉せっけんくくる糸満」で、沖縄県中小企業家同友会主催の第十九回雇用・就労支援フォーラムが開催され、二百十名が参加しました。基調講演には「久遠チョコレート」代表の夏目浩次氏が登壇し、聞き手を務めたのは冒険王㈱の佐和田安行社長。会場は熱気と笑顔に包まれ、講演は終始あたたかな雰囲気で進められました。

テーマは「多様性を力に変える社会へ～仕方ないは変えられる～人はみんなでこぼこ丁寧な社会へ～」。夏目氏は、障がい者の平均工賃が月一万円程度にとどまる現実に疑問を持ち、「仕方ない」という言葉に抗い続けてきた自身の歩みを語りました。二十六歳で脱サラし、借金を抱えながらも「居場所ではなく、稼げる場所をつくる」挑戦を始めたことが原点でした。

会場全体

聞き手の 佐和田 安行 氏

講師の 夏目 浩次 氏

転機となったのがチョコレートとの出会いです。「チョコレートは失敗してもまた溶かせる、人に時間を合わせてくれる食材」との気づきから、多様な人と共に働く道を開きます。現在、久遠チョコレートは全国に広がり、社員約八百名のうち半数が障がい者手帳を持つといいます。夏目氏は「福祉事業をしているつもりはない。一流のブランドを目指し、誰もが胸を張って働ける会社を築きたい」と語りました。

印象的だったのは「丁寧」という言葉です。効率や成長を追うだけではなく、「でこぼこ」の人同士が組み合わさることで新しい価値が生まれるとし、「必要以上に障がい者と健常者を区分けするのではなく、人と人が丁寧に向き合うことが大切」と強調しました。石臼で粉をひく「パウダーラボ」のように一見非効率な手作業が、逆にブランド価値を高めている事例も紹介されました。

聞き手を務めた佐和田安行氏（㈱冒険王・社長）は、夏目氏の挑戦を丁寧に掘り下げ、時に笑いを交えながら本音を引き出しました。その問いかけによって、夏目氏の〝借金を背負ってでも雇用を守った日々〟や〝ミートボールばかり食べていた苦労話〟など、報道だけでは伝わらない人間味あるエピソードが披露されました。佐和田氏の巧みなインタビューにより、参加者は夏目氏の理念だけでなく、その人柄や情熱にも触れることができました。

講演を通じて浮かび上がったのは、「仕方ない」で片づけず、本気のスイッチを押すことの大切さです。夏目氏の言葉と佐和田氏の引き出し役としての力に、参加者からは「勇気をもらった」「自分の経営にも活かしたい」との声が寄せられました。「でこぼこ」を受け入れ、丁寧に向き合う社会の実現に向け、考えさせられるひとときとなりました。

（㈱アイセック・ジャパン　一瀬宗也）

全体会での分科会報告

第１分科会
（雇用している企業の報告）

現実と向き合い、温かいダイバーシティを築く実践報告

報告者の 高橋 俊博 氏

　第１分科会は、「法定雇用率７％を超えた企業の思いと取り組み～地域貢献は企業運営の柱～」をテーマに、タピック沖縄㈱ユインチホテル南城の人財開発課次長　高橋俊博氏が報告し、一七名が参加しました。

　高橋氏による、ゆいんちホテル南城の障害者雇用の取り組み報告は、「きれいごとではない」現実と真摯に向き合いながら、多様な人材が活躍できる職場環境を真摯に構築していく過程を示す実践的な内容でした。

　二〇一五年の入社後、人事・障害者雇用ともに未経験からスタートし、職安からの障害者雇用に対する通知をきっかけに、特別支援学校や支援員との協力して、地道に雇用を推進してきた背景が語られました。

　企業が経済活動を行う主体であるという認識のもと、「戦力になるかの見極めは重要」と冷静に現状を捉える姿勢は、企業の持続可能性と雇用の継続性を両立させる上で非常に重要だと思いました。

　タピック沖縄では、シニア、外国人、女性、そして障害者を含む多様な人材活用を「人と地域を大切にする」というキーワードで進めており、その中で障害者スタッフ十二名も雇用しています。「無理はしない」を基本方針に、本人に合わせた丁寧な仕事の切り出しを行っており、「かしこまったサービスよりも温かみのあるサービス」を目指すという考えは、ホテルの接客における新たな可能性を示し、参加者に多くの共感をもたらせました。

　一方で、入社後のメンタル不調による早期退職という、障害者雇用の現場で頻出する深刻な課題にも直面しています。これに対し、高橋氏と産業カウンセラーによる「高ゆいカフェ」という風通しの良い相談環境を整備し、早期に問題を拾い上げる体制を構築している点は、「共に働く仲間を守る」という企業の強い意志を感じました。

　さらに、卒業生がメンターとして後輩を育成するなど、スタッフの積極的な成長を促し、丁寧な取り組みが着実に成果を生み出していると感じました。

　理想で終わらせず、現実の課題にトライアンドエラーで取り組み、「同じ人として」協力しながら丁寧に向き合う高橋氏の等身大の姿を通じて、地域社会に貢献しつつ企業としての成長を目指す、真に価値あるダイバーシティ推進の姿であると思います。

（㈱はじめのいっぽ・花村昭良）

第２分科会
（支援側の報告）

就労支援で作った商品が一流ホテルショップや人気セレクトショップでなぜ売れたのか

報告者の 山城 南美子氏（左）と 根橋 理香氏（右）

　第二分科会は三十二名が参加し、「就労支援で作った商品が一流ホテルショップや人気セレクトショップで、なぜ売れたのか」をテーマに、㈱カリタスの社長、根橋理香氏と、どこでもＷｏｒｋ㈱の社長、山城南美子氏が報告しました。

　根橋社長は、現在の広告代理店では、事業継承が難しい中、百年残る企業を目指し、第二創業を決意し、二〇二一年に新事業をスタートしました。

　まず、何をするかを考えたとき、我が社には、「パッチワークドラゴンを作るオタクの部活動があるじゃないか」。自分たちも楽しめる物作りをやろうと奮起しました。

　生産方法についても、大量生産や海外発注は違うと考え、１．沖縄をテーマ　２．障がい者、高齢者、在宅ワークの女性　３．高付加価値商品、のコンセプトを決めスモールスタートしました。

　その中でも四つ、１．沖縄で企画制作　２．県内の作家さんと連携し紅型や織物使った商品　３．どこでもＷｏｒｋさんへ依頼し沖縄の雇用に貢献　４．沖縄をテーマにした物作り、を重点に始まりました。

　軌道に乗るまで二年。二〇二四年自社ブランド「さうし」誕生。色々な物を制作するも、さてどこで売るか？助けてくれたのが同友会女性経営者部会の碧の会でした。そこから販路が広がり、目利きのコンサル、県外バイヤーからも認められ、商品に自信が持てました。さらにアドバイスを貰い、売れる工夫、ラッピング、プロの撮影、公社などへの展示会へ出品、等など。作り手の自信のもつながりました。

　結論として、障がいのあるなしではなく、商品力があれば売れること。製作依頼した、どこでもＷｏｒｋ㈱は「いいご縁をつなぐ」と一九九〇年に在宅型Ｂ型支援を創業しました。年、マスコットの龍柱づくりを開始。販売できる商品が出来るまで縫い賃も発生しない中で、ＺＯＯＭで商品チェックし、高品質商品を保つために分かりやすい作業手順のマニュアルを作成しました。

　また、沖縄の塩が入った、「島にゃーす」などヒット商品も出しますが、大量生産ができない、賃金と釣り合わないなど課題は残ります。できることから価値ある仕事を作り出しながら、障がい者の経済的自立を目指していきます。

（ミニクラブ水華・町田浩美）

第3分科会

連携づくりパネルディスカッション

行政・学校・企業の連携で生み出す新たなカタチ

國吉 利生 氏

大湾 加奈子 氏

稲田 洋一 氏

座間味 一朗 氏

第三分科会は「行政・学校・企業の連携で生み出す新たなカタチ～障がい者雇用のプラットフォーム～」をテーマとし、コーディネーターに、南部地区障害者就業・生活支援ブリッジのセンター長、國吉利生氏が務め、連携づくりについてのパネルディスカッションが行われ、四十二名が参加しました。

糸満市障害福祉課長の大湾加奈子氏からは、市内における障がい者数や福祉事業所の数、自立支援協議会など課題解決についての取り組みが報告され、西崎特別支援学校長の稲田洋一氏からは、不登校だった生徒を卒業と同時に学校で雇用し、大活躍している事例が発表されました。㈱ざまみダンボール社長、座間味一朗氏からは、自社の障がいのある社員が現場の機長としてリーダー職についており、同社では障がいの有無での評価はせず従事業務についての評価を用いているとの報告がありました。

共通点として、障がいがあっても可能性を否定せず、経験を積むことにより障がい者自身の選択肢を広げ、さらに経験を積むという当たり前のことができる社会を形成してくことが必要で、それを取り組むために社会全体が協働していく仕組みにしていこうというお話しでした。

グループ討論では、参加者に同友会員外のゲスト参加者も多く、企業、支援業者、行政、家族など関係者全体が集う形になり、「共生社会にしていくために、あなたは何をしますか」をテーマに、各自の取組や疑問点などを情報交換をしながら意見を深めておりました。障がいがあっても失敗も含めた経験ができる社会づくりをしていきましょう。

（みやこ福祉会・神里裕丈）

第4分科会

総務必見

障がい者雇用と助成金取得は難しくない

～助成金活用&障がい者雇用で会社が変わる！活気づく～

第４分科会では十八名が参加し、県の取り組みについてのパネルディスカッションを行いました。パネリストに沖縄県商工労働部雇用政策課　主査　仲村渠ゆかり氏、（社福）若竹福祉会るにあ　センター長 吉川嘉朝氏、㈲アイディー・ブランド 喜納利光氏、コーディネーターに㈱小梅と諭吉舎 社長　朝比奈めぐみ氏が登壇し、障がい者雇用についての制度や助成金の活用方法についての説明がありました。

制度の話の中で吉川氏が障害者就業・生活支援センター（通称：なかぽつ）とは、障がいのある人の仕事を探すお手伝いや、働きながら安心して生活できるように、働き方や生活のアドバイスをしたり、企業やハローワーク、学校や福祉施設等と連携・協力しながらサポートするのだと説明がありました。

会場に居た障がい者雇用で働いている当事者から「私は発達障害があり、就職をしたが体調を崩してしまい働くことが困難な時期があった。その時、会社から〝なかぽつ〟に相談することを勧められ、相談したところ、生活習慣などの改善アドバイスを受け体調が安定して、また働くことができた。私のように〝なかぽつ〟の事を知らない当事者もいると思うので、必要としている人に〝なかぽつ〟の存在を教えてほしいです。」と感想を伝えてくれました。

コーディネーターとパネリストの皆さん

助成金に関しては助成金の種類の説明や、求人票を作成するときからハローワークなどに確認や相談する重要性について説明があり、グループ討論でも制度を知ることの重要性や障がい者雇用に対して前向きな意見が聞かれました。

（㈲友誠・棚原歩美）

浦添てだこ支部　10月支部例会

社員教育の盲点、まずは社長〇〇！

報告者の 森山 賢 氏

十月十七日、沖縄産業支援センターにて、浦添てだこ支部の支部例会が三十四名の参加で行われました。テーマは「社員教育の盲点、まずは社長〇〇！」とし、報告者は県内七店舗を運営する㈱琉球補聴器の森山賢社長、座長は、㈱グローバルリンクの伊波竜作社長がつとめました。

初めに、最近完成したばかりの琉球補聴器のCM動画（父子編）を上映しました。その後は、森山社長の先代の父との確執、二人の溝も埋まらないままでの事業継承から、会社全体での合宿での出来事の話をされました。

森山社長はこれから皆で、絶対に良い会社するとの想いを込めて、皆で叶えたい夢を出し合いました。皆の夢を必ず叶えるぞ！との賢社長の想いをよそに、続いて行われた、その夢を叶える為に障害になってる課題を出し合った時に、項目別に分けられ、ある一箇所に集中していました。それを確認すると「社長が社員と向き合っていない」「社長が何考えているか分からない」などなど社長大嫌い！なコメントが並べられており、皆の夢を邪魔していたのは自分だったのだと現実を突きつけられ、その日は寝れずに朝を迎えました。

次の日は皆の前で土下座して、自分が変わろう！本当の社長になろう！と決意。まずは父との確執と自ら向き合いました。父の遡源を知るため、皆で出身地の多良間島へ向かい、会長の生き方を知ることが出来ました。そこから森山社長の自身への改革は、そのまま社員の意識改革になり、今でこそ名物の朝礼は本土企業や大臣までもが視察来るほどになり「日本で一番大切にしたい会社」大賞も受賞しました。社員教育の原点まずは社長が学び成長すること。「教育は共育」との想いで、共に学びあう文化が琉球補聴器にはあることを感じられた例会になりました。　（㈱ハピスル・金城秀治郎）

会場全体

サンライズ支部　10月支部例会

私の会社には魅力がある！

報告者の 金城 隆子 氏

十月二十九日、西原町のさわふじ未来ホールにて、サンライズ支部例会が開催され、二十四名が参加しました。報告者は、副支部長で㈱プログレス31 社長の金城隆子氏で、テーマは「出会いが『新たな視点』をくれた～小さな意識が事業を動かす～」でした。

金城氏は、二十三歳で結婚して、普通に主婦をイメージしていましたが、知らぬ間に二千万円ものトラックヘッドを購入するなどして、脱サラを準備していた夫の運送会社を、渋々やらされる羽目になったと思ったら、直ぐに夫の癌が見つかり、翌年には他界してしまいます。その一年間、自身は出産・育児、福岡の病院通いと大変でした。それでも従業員はいるし、借金もあるし、その後の十年間は、実家に子どもを預け、いくつもバイトを掛け持ち、必死で会社を守ってきました。

ある日、商工会に立ち寄った時、M&Aの相談室が目に留まりました。そこで「運送業会社は魅力があり、直ぐに企業が見つかる」との受け答えを聞き、ハッとします。「私の会社は魅力があるんだ」と。そこから、「私の会社をつくろう」と徐々に気持ちが、前向きに転換していきました。

そうなると二度目の同友会入会では、アンテナが広がります。多くの女性経営者から刺激を受け、宮沢財務管理オフィスさんとの出会いや、もちろん経営指針作成講座も受講しました。

現在、コンテナの販売、保管事業や北部の農家でも那覇のスーパーで販売できるという、農家で育てた作物をマックスバリューの契約店舗で販売する事業も展開。さらに、役員とともに介護ヘルパーと整理収納アドバイザーの資格を取得し、高齢者の自宅の片付けや引っ越しをサポートする新事業も。「運送業も福祉と関わる時代になっている」と将来を見据えています。

最後に、座長の石川京美副支部長（㈱いしかわ文明堂・社長）は、①出会いが意識を変える②同友会の学びと実践③ヨコ展開での事業の成長、この三つが今日の支部例会の学びであり、ぜひ、自社に持ち帰って明日からの実践に活かして欲しいとまとめました。

（カラオケ同友会・島尻裕巳）

グループ討論

宮古支部　10月支部例会

経営者は絶対にあきらめちゃいかん！

会場全体

座長の友利支部長と報告者

報告者の 一瀬 宗也 氏

十月二十三日、宮古島市ＩＣＴ交流センターにて、今年度三回目となる支部例会を、外部参加者二名を含む十八名の参加で開催しました。例会のテーマは「経営者は絶対にあきらめちゃいかん！」とし、報告者は㈱アイセック・ジャパンの一瀬宗也社長、座長は先嶋産業㈱の友利博明社長が務めました。

一瀬氏は、大手ＩＴ企業に就職し、サラリーマンとして経験を積んだ後に独立。耳の不自由な方や、耳が聞こえにくくなった高齢者などに対して電話の音声を文字にするサービスなどを展開します。順調に事業を拡大していましたが、次第に業績が悪化し、社員への給与支払いもままならないほどの苦境に陥りました。

そんな折、知人である経営者からの誘いを受け、活動内容もよく分からないまま同友会に入会しましたが、活動に参加し経営者としての学びを実践していく中で、同友会の仲間である経営者の力を借りながら、会社の業績を少しずつ回復させることができました。同時に、同友会を通じて金融機関の支援を受けることができた経験から、日頃から金融機関と信頼関係を築いておくことが、経営者にとっての最重要課題の一つであることも明確になりました。

その後のグループ討論では「経営者が経営を続けていくために必要な要素はなんですか？」をテーマに、参加者同士で自社の課題や取り組みについて意見交換が行われ、経営者としてのそれぞれの考え方を共有する場となりました。

「声を文字にして世界へ」という企業スローガンのもと、今後の取り組みとして、聴覚に障害のある方や高齢者でも楽しめる字幕放送が可能なラジオ局の全国展開や、動画配信の視聴フォロワー拡大などについても具体的なお話を伺うことができ、同友会の目的のひとつである「よい会社」とは何かを改めて学ぶことができた十月例会となりました。

（先嶋産業・㈱友利博明）

グループ討論

那覇支部 合同例会

全国で2%に入る整骨院企業のこれまでとこれから

報告者の 湧川 洋邦 氏

十月二十四日、那覇支部の西地区と南地区の合同例会が三十一名の参加で開催され、㈱TEAM沖縄 代表取締役 湧川洋邦氏を迎え、整骨院業界で全国上位二%に入るまでの軌跡と今後の展望をテーマに報告されました。会場には会員や整骨院の常連様などが参加し、報告者の熱意が高いこともあり、終始熱気に包まれました。

全国の整骨院の九割が約十五坪といわれる中、湧川氏はわずか二十九歳で六十坪・駐車場十台という規模を単身で借り、二〇一八年「ひかり整骨院」を開業しました。開業当初は「なぜここを借りるのか」と銀行にもご家族にも反対されたといいますが、綿密な計算と仮想開業で準備を重ねた結果、開業二ヶ月で黒字化。二〇二一年には社員六名（柔道整復師五名、奥様が事務担当）を擁する企業へと成長しています。

報告の冒頭では、福岡での丁稚奉公時代を回顧しました。二百二十時間労働、月収七万円、片道三〇kmを車で通う八年間の修行の中で「毎日、仕事が楽しい」と心から思えたことが原点だったと語ります。そして、結婚を機に沖縄へ戻り、雇われ院長として三年間企業経営を学んだ経験が、後の独立の大きな糧となりました。

しかし順風満帆ではありませんでした。開業直後に新卒スタッフが退職し、初めての「心の危機」を経験します。暫くショックで落ち込んでいた時、妻からの助言に背中を押され気持ちを切り替えることができました。一人で六十坪を切り盛りした過酷な時期もありました。平日は朝八時から夜十一時まで、日曜祝日も事務作業。妻も現場に出てもらい、家族との時間は失われ、ストレスから三歳の娘さんにチック症状が出たことも。「スタッフを〝売上のピース〟としか見ていなかった」と振り返り、そこから〝相手がどう考えているか〟を大切にする姿勢へと変わったといいます。

二〇二〇年コロナ禍で売上が七十%減となる中、「今は力を蓄える時期」という先輩経営者の言葉を胸に、一六〇〇万円の融資を受けて耐え抜きました。結果、下半期にはV字回復し、前年比一三〇%を達成。法人化、同友会入会、経営理念の確立へと歩みを進めていきます。

【経営理念】

★医療と人間力を通し、地域社会を明るく照し健康を創る

★技術・接客・想いを磨き続け、身体の悩みを解決し豊かな未来を創る

★仲間同士が共い学び合い、お互いが自立し成幸を創る

「経営理念の実践が社員の主体性を育てた」と語る湧川氏。評価制度を壁に掲げ、住宅・交通・紹介など手当も透明化。働きがいと働きやすさを両立させる姿勢に、金融機関からも高い評価を受けています。

中長期ビジョンとして二〇三〇年までに四店舗体制、年商二億五千万円、二〇三三年には五店舗、年商三億円を目指すことも明示しました。採用・育成・離職率の改善を軸に、地域貢献活動やスポーツ支援にも積極的です。FC琉球さくらaleへのトレーナー派遣、那覇マラソンでのボランティアストレッチ、そして少年サッカー「ひかりカップ」の開催構想など、地域の健康づくりにも力を注いでいます。

最後に、常連として私自身も院の温かい空気を感じてきました。湧川氏の言葉と笑顔の裏にある努力と学び、そして「地域を照らす整骨院づくり」という志が、これからの沖縄の医療業界を照らしていくことでしょう。

（㈱アメニティ・慶田盛克麿）

グループ討論

中部支部 10月支部例会

「治療は支出、予防は投資」

～健康経営の実践～

中部支部例会が十月二十四日、北中城村あやかりの杜にて十四名の参加で開催され、～からだ元気工房～GYM BOOTY PLUS代表の徳嶺克則氏より、「体が変わると、事業も変わる～働き詰めの先で気づいたこと―ありがとう筋肉～」と題した報告が行われました。座長は、㈱キモノバナ 社長の山城咲乃氏が務めました。

徳嶺氏は宮古島出身。学生時代は陸上競技で活躍し、社会人となってからはコープおきなわで長年勤務されました。しかし、働き詰めの生活のなかで脳梗塞を発症。入院生活の中で「死の恐怖」と向き合いながら、「どれだけお金を払っても健康や時間は取り戻せない」という現実に直面したと語られました。その経験をきっかけに、自身の健康と本気で向き合うようになり、トレーナーとして独立。現在はトレーニングや骨格調整等を通して、地域の健康づくりと企業経営者への健康意識の啓発に取り組まれています。

報告者の 徳嶺 克則 氏

座長の山城咲乃氏

報告の中で特に印象的だったのは、「治療は支出、予防は投資」という言葉でした。病気になってからの治療費や休業による損失は〝出ていくだけ〟のお金であり、経営に例えるならば「回収不能の支出」です。一方、運動習慣や食生活の改善、定期的な健康診断などへの支出は、将来の医療費を減らし、集中力や判断力を高め、経営判断の精度を上げる〝投資〟だと徳嶺氏は語ります。その効果はお金だけでなく、家族や社員との関係、人生の質全体に大きなリターンをもたらすと強調されました。また、「経営における研究開発費や人材教育費と同じように、健康への投資は未来の競争力をつくる」との言葉が心に残りました。現在の生活習慣が十年後、二十年後の自分の体をつくる、まさに「健康貯金」という考え方です。

私自身も、経営者は体が資本であると理解しながらも、日々の忙しさに追われ、積極的な健康管理を後回しにしてきたことを反省させられました。「予防＝投資」という言葉に改めて背中を押され、まずは自分の体を整えることが、自身と社員を守る第一歩であると改めて感じました。具体的には、デスクワークで疲れにくい座り方を紹介され、早速私も実践中です。

徳嶺氏の報告は、単なる健康論にとどまらず、心と体、そして経営のつながりを具体的に示していました。

例会後のグループ討論では、「あなたやあなたの会社ではどのような健康管理をしていますか」「経営者が病気になった時の備えはありますか」をテーマに意見交換を実施。それぞれの会社での取り組みや、日々の健康維持への工夫が紹介され、経営者自身と社員の健康、そして会社の持続的な発展について考える貴重な時間となりました。

(司法書士法人なかいし事務所・新城千夏)

北部支部 10月支部例会

同友会で学ぶ理由 ～私が決断する時、思うことは～

十月二十八日、名護市産業支援センターにて北部支部例会が開催され二十名が参加しました。十月例会では、シンプロメンテ㈱沖縄営業所 所長 徳田恭紀氏が「同友会で学ぶ理由～私が決断する時、思うことは～」をテーマに報告を行いました。

徳田氏は高校卒業後、父親の経営する工務店に入社し、その後、別の設計事務所で経験を積み、独立しましたが仕事が取れず、いろいろな仕事を経験しました。やがて父親の経営する会社の倒産の影響で心が病み、家庭でトラブルを起こし孤立しました。その後、現在の修繕業務を全国展開している会社に入社し、協力店を開拓する事をきっかけに同友会に参加するようになりました。例会や経営指針作成講座、同友会大学で多くを学び、参加するうちに同友会の魅力にはまっていったそうです。

会場全体

会社でいくつかのトラブルがあり、社員が辞めてしまった時もありましたが、「私は社員を家族みたいに思っています」と徳田氏は話されました。従業員の採用面接の時に個人的なことを聞いてはダメだと分かってはいるものの、「その人の状況がわからなければサポートができないのではないかと考え、あえて聞くようにしています」とのことでした。

「やっぱり社員あっての会社です。会社を良い方向に変えていくのに社員との会話が大事だと思います。また自分が変わらなければ社員は変わらないと改めて思うようになりました」と、社員への思いと自身の姿勢についても語られました。

そして、「同友会でいろんな人に出会えたことに感謝し、これからも時間を作り、どんどん同友会の活動に参加していきたいと思います」と、今後の抱負を語られたことが印象的でした。

（㈱オキジム　當山安史）

◆北部支部 会員交流ビーチパーティ

十月十二日、名護市 幸喜ビーチにて北部支部の会員交流ビーチパーティーが開催されました。会員と家族あわせて約二十六名（子ども約十名）が参加し、波の音と潮風に包まれながら、にぎやかであたたかい時間を過ごしました。台風が近づき、心配された天気も当日は問題なく、ゆっくりとBBQを楽しむことができました。

当日は、北部支部会員の山吉フードさんの良質なお肉がずらりと並び、なかでも馬刺しは評判でした。さらに、高木支部長お手製のキャベツの浅漬けも人気でした。大人たちはビールやソフトドリンク片手に、ざっくばらんに語り合いました。また、子どもたちは砂浜で遊んだり、海辺を走り回ったりと元気いっぱい。

盛り上がったモルック

ビーチでBBQ

毎年恒例となった、「モルック」（フィンランド発祥のスポーツ）では、大いに盛り上がりました。木のピンめがけて投げるたびに歓声や笑い声があがりました。自然の中で一緒に楽しむことで、あらためて北部支部の一体感とつながりの強さを実感できた一日でした。準備や片付けにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

（㈱アイランド・プロジェクト　新井章仁）

南部支部　10月支部会

地域課題を事業へ　～百年企業への誓い、いつでも青春どまんなか～

報告者の平良寿成氏

十月三十一日、南風原町津嘉山公民館にて十月支部例会が二十五名の参加で開催されました。報告者は㈲寿ランド社長の平良寿成氏です。

平良社長はまず「青春」の定義を話しました。「青春」は新しい人との出会い、新しい知識との出会い、新しい経験との出会い、今までの自分の概念を変えてしまうインパクトの出会い。新しい自分を求めて行動できたならば、何歳まででだって青春どまんなかで本人もその真っ只中にいるとのこと。学生時代までは父親が怖くて怒らせないように気を使っていたそうです。

東京で就職して働きますが営業希望が理系出身という理由で経理部門に配属され不満だったそうですが、今となっては貴重な経験になったそうです。仕事ができるようになり今後の人生について葛藤が生まれます。このまま東京に残り続けるか、沖縄に帰り父親の会社を手伝うのか。沖縄に帰るきっかけとなったのが東日本大震災でした。何が起こるか分からない人生、後悔しないためにも、家族の傍にいたい思いが強くなり寿ランドへ入社します。

会社は一九八六年創業、会社理念の文言に「エンジョイライフ」自分らしく人生を楽しむことで、地域社会へ貢献することを目的とするとあり、スイミングスクールとして始めますが理念にある「エンジョイライフ」を実現するために、職員とお客様の信頼関係が会社を大きく成長させていきます。

お客様からの困りごとを解決するなかで「おがくず風呂」「デイサービス」「児童デイサービス」「有料老人ホーム」「学童クラブ」「歩行リハビリ特化の半日デイサービス」「マタニティスイミング」と様々な事業を展開していき、今の寿ランドが形成されます。

「赤ちゃん（生まれる前）からご高齢者まで」「健常者も障がいがある方も」一緒にいられる空間ができています。全てがうまくいった訳ではなく失敗した事業もあったそうです。その共通点はお客様の困ったことに応えるのではなく、自分達がやってみたかった事業はことごとく失敗＆撤退となったそうで、やりたいとできるは違うことが分かったそうです。

同友会との出会いは、社長である父と事ある毎に意見が対立し悩んでいたところに南部支部総会の案内が届き社長から何かヒントがあるかもしれないから行ってこいと言われ渋々参加。そこで会員の松田一志氏に出会い、青年会議所、商工会青年部、同友会に参加するようになり、本業を抱えながらも利他的な行動をされていて、学びにストイックな多くの仲間たちに青春を感じる衝撃を受けたそうです。

リーダーシップに必要なことはギブ＆ギブ＆ギブ＆テイク率先して与える人になる。伝えたいことがあればその人の立場になって、しっかりと伝わる言葉を選ぶ。失敗や過ちに本気で向き合ってくれる仲間に出会い事業承継を決意しました。

集合写真

父の「創始の想い」や経営の中で楽しかったことや苦しかったことを聞くなど多くのコミュニケーションを重ねました。父親も経営の悩みを分かち合える仲間がいることで孤独な経営者にならないと確信して、「来月からお前が社長やれ、交代だ」の一言で二〇一九年四月社長に就任します。就任したとたんコロナで売上が半減します。しかし、決意したことはどんな状況下でも諦めず旗を振り社員たちと「今お客様のために何ができるか？」を何度も話し合い、辞める社員は一人も出ず、コロナが収束する頃には、売上はコロナ前の水準を上回ることができたとのこと。

「人に優しくあるために、会社を強くしなければ！」

今後の展望として、

①福祉業の収益化モデルの確立、②各業種とのパートナーシップの確立、③複数の就労事業所の設立、④少子高齢化問題帰結へのチャレンジ、⑤職員の給料UPを掲げ、百年企業まであと六十年一歩ずつ着実に未来を目指して奮闘中の報告でした。

グループ討論は「自社と親和性のある新事業はなんですか？」について各グループとも活発な議論が出ていました。

あなたは青春してますか？

（㈲たけ事務・竹富久）

同友会大学・第8講とＰＡ体験

講師の 山城 定男 氏

　十月十八日、東村つつじエコパークで同友会大学第八講が二十五名の参加で開催されました。講師は沖縄県地域振興協会専門アドバイザー　山城定男氏。自らを「Ｍｒ．やんばる」と名乗っており、定年退職前まで行政マンとして「東村つつじ祭り」「高付加価値パインアップル」「エコツーリズム」等など、数々の地域資源を活かす仕組みづくりを創出してきました。

PA 体験

「できっこない」「失敗したらどうするのだ」の否定的な意見にも「リスクのない事業はない」と時間をかけて承認を得てきました。しかし当時は眠れぬ夜が続いたと言います。その結果、東村の観光交流人口は五万三八五四人・修学旅行一校（平成十年）から三十五万五十四人・修学旅行三九六校（平成三十年）へ大きく伸びました。

　山城氏から受講生へ「ないものねだりでなく　あるものを生かす」「弱みを克服・強みを生かす」「キーワードは『夢・戦略・信念・情熱』」等のメッセージがあり、グループ討論でも活発な意見交換が行われていました。

　その後行われたＰＡ（プロジェクトアドベンチャー）は、皆が打ち解けやすいゲームから始まり、笑顔の輪が広がりました。一転、高所でのプログラムは一様に不安気でしたが、「無理だ、怖い」を克服していく姿にも学びが多くありました。ＢＢＱと宿泊の東村は、毎年受講生の交流を促進し、楽しい思い出を作り上げています。　（事務局）

社長・社員共有塾　第3講

社員と共に成長する会社をめざす三位一体の経営実践

講師の 峯元 信明 氏

　去る十月二十日、沖縄産業支援センターにて、第二十四期社長・社員共育塾の第三講が開催され、受講生七十三名を含む九十四名が参加し、「社員と共に成長する会社をめざす三位一体の経営実践」をテーマに、㈱ブンカ巧芸社　社長　峯元信明氏（中同協共同求人副委員長・鹿児島同友会副代表理事）の講義が行われました。

　峯元氏の講義は、中小企業家同友会が提唱する「よい会社、よい経営者、よい経営環境づくり」を愚直に、諦めずに実践する姿勢に満ちていました。父親から事業を承継し、経営危機を社員と共に乗り越え、同友会活動を通じて会社を変革してきたその道のりは、まさに多くの中小企業が目指すべき姿と言えます。

　具体的には、経営理念の成文化に始まり、新卒採用と共育、さらに社員満足度調査や評価・表彰制度の構築といった社員の声を聞く仕組みを整備。組織を成長軌道に乗せるためのプロジェクト推進、沖縄進出、そしてＭ＆Ａへと、着実に経営のステップを踏み進めています。

講義に聞き入る受講生

　一般的にどうして当たり前にそれができないのか？それは経営者の一念だと思います。そして峯元氏が最後に話をされた「継続」「行動」「期待」これに限ると感じました。講義終了後のグループ討論では「あなたは成長するために、チームの中でどんな一歩（チャレンジ）を踏み出しますか？」をテーマに各社の取り組みや課題が話し合われました。

　今回も第二十四期テーマ「人を生かすチームづくり」について、多くの気づきが得られる講義となりました。

（マエダ電気工事㈱・真栄田士郎）

わが社のポリシー

第330回

㈱ 輝 水
代表取締役社長　新垣 大輝 氏
＜南部支部＞

社員とその家族の幸せを第一に

■ 父からのバトン、「自分とは違うことをやりなさい」

「自分とは違うことをやりなさい」
事業承継を前に、創業者であるお父さんからそう言われたといいます。
給排水設備や電気設備の設計・施工・管理を手がける株式会社輝水は、今年で 20 期目。2006 年に新垣さんのお父さんが創業し、2025 年 6 月 1 日の日曜日に新垣大輝さんが代表取締役社長に就任しました。月曜日の朝礼からは、お父さんは会社に顔を出さなくなったそうです。まさに、完全なバトンタッチでした。

■ 大学時代の挑戦が転機に

大学在学中、新垣さんはお父さんからリゾート施設の設立・運営を任された経験があります。土地の購入､借入れ、施設のコンセプトづくりまで、すべてを自分で考え、動かすという貴重な体験でした。
その経験を経て、卒業後に輝水へ入社。お父さんからは「お前に継がせるとは決まってないぞ」と言われながらも、キャリアの一つとして挑戦してみようと決意しました。
しかし、入社してみると想像以上に厳しい現場が待っていました。現場作業から積算、見積もりまで、未経験でも「お前がやれ」と丸投げされる日々。他の社員さんたちから「大丈夫か？」と心配されながらも、負けたくない一心で資格を取り、知識を身につけ、体で仕事の流れを覚えていきました。
いまではその経験が、社長としての大きな糧になっています。

■ 異業種交流で広がった視野

お父さんは現場一筋の職人気質。
一方で新垣さんは、「経営や営業の面から会社を伸ばしたい」と考えました。そこで、業界の外にも積極的に足を運んで異業種の経営者と交流を重ね、経営の奥深さや社会の変化のスピードを実感。「現場を知りすぎると、社員に任せられなくなる」という父の言葉の意味も、今はよくわかると話します。

■ 経営理念づくりは“父の思い”を読み解く時間

同友会に入会したのは、中部支部会員の㈱設備技研平良専務に誘われたのがきっかけ。
「入会と経営指針はセット」と言われて受講した経営指針作成講座が、大きなターニングポイントでした。
「自分の作った会社じゃないからこそ、経営理念をつくるべきだ」と考え、2024 年 3 月の講座に参加。お父さんやお母さんともじっくり話し、創業者の思いを丁寧に読み取っていきました。
そして 2025 年 1 月、お父さんが事業承継を公表した日に、新しい経営理念を制定します。

■ 家族を大切にする会社であり続けたい

そこには、創業時からの温かい思いが息づいています。
お父さんは、かつて祖父の会社で働いていたとき、家族との時間が取れないことに苦しみ、「社員が家族を大切にできる会社をつくりたい」と独立しました。だから輝水では、子どもの運動会や家族の病気で休むことをためらう社員はいません。
新しい理念の最初の言葉が「社員とその家族が物心共に豊かになり」とあるのは、そんな創業者の願いを汲み取ったからなのです。

■ 経営理念という羅針盤

新垣さんが定めた経営理念は次の三つ。

- 社員とその家族が物心共に豊かになり、社員と会社が共に成長します。
- インフラ設備を造る会社として、社会に信頼される会社を創造します。
- 常に先見性を持ち、高度な技術力でお客様に貢献します。

「インフラを造る会社として、自分たちの仕事は誇りあるもの。社会のライフラインを支えるという使命感と誇りを社員には持ってほしい」と新垣さん。
「輝水だったら大丈夫」と言ってもらえる信頼を築くことを何より大切にしています。

■ 家業から企業へ──理念を軸に歩む

今後の目標は「家業から企業へ」。
家族が全てを把握して動かす“家業”から、社員がそれぞれの持ち場で責任と権限を持って動く“企業”へ。
その軸となるのが経営理念です。
「私利私欲のためではなく、理念を軸に経営していく」
その言葉には、若き経営者の覚悟がにじみます。

■ 10 年後、社員と語り合える理念に

最後に「10 年後、社員に“この理念のもとで働いてどうだった？”と聞いてみたいんです」と話してくれました。
理念が社員一人ひとりの中で育ち、語り合えるものになる──
新垣大輝さんの挑戦は、これからが本番です。　　（伴走舎・牧野誠）

《会社概要》

㈱ 輝 水
代表取締役社長　新垣 大輝 氏
〈南部支部〉
所在地／那覇市長田1-24-24
ＴＥＬ／098-835-9018
事業内容／建設（水道、電気、空調）

会員ホット情報

今おすすめだよ!

「利用者はお客様」
自分らしく地域で暮らせる社会を！

代表社員の 保田盛 健将 氏 と 道代 氏

日々ゆるーい感じでの起床から、食事時には誰かに見せたくなるようなオシャレなゴハン、生活のあらゆるサポートをしてくれて、週末には参加自由なレクのお誘いも…。ここまで聞くと「なんて幸せな生活」…と感じる方も多いと思いますが、これを「利用者はお客様」と掲げ、障害のある方へのグループホームを展開している合同会社やーる 代表 保田盛建将氏にお話を伺いました。

グループホームを始めたきっかけは？

大学卒業後に地元に戻り、ご縁から津嘉山航氏が経営する「ゆにばいしがき」に 10 年間ほどお世話になりました。この頃、石垣市に圧倒的なニーズがあるにも関わらず、供給が足りていない福祉サービスが「共同生活援助（グループホーム）」でした。障がい者が地域で自立した生活を支援することの重要性を、一緒に働いていた妻と共有するうちに、独立を意識するようになりました。

そこで 2018 年 9 月に合同会社やーる設立、翌年 7 月には「グループホームふだずめー（重度障がい者二十部屋 / ショートステイ 4 部屋)」を開所しました。現在は「月光（男性専用 4 部屋)」「やーる宮良（女性専用 7 部屋)」全 3 か所を利用者の個別性を尊重した支援計画のもと、地域での安心した暮らしをサポートしています。

運営をする際のこだわりと、支援内容をお聞かせください。

先に述べた「利用者はお客様」を掲げ、安心安全を第一にサービスを提供することが、最大のこだわりです。食事の提供、金銭管理のサポート、服薬管理、通院同行など、日常生活全般にわたる支援を提供しています。

特に利用者が孤立せず地域の一員として参加できるよう、近隣住民との交流や日中活動への参加機会を積極的に設けています。夜間支援員をはじめ、二十四時間シフト制にて職員を配置し、経営理念と経営指針を基に、利用者様が自分らしく充実した毎日を送れるよう、日々サポートしています。

将来のグループホームについて

何としてもまずは来年完成予定（4 か所目）の弊社の一人暮らしタイプの「グループホームやもり」です。事前に行ったアンケートでは定員 20 名に対して 60 名の応募希望があり、石垣市の障害福祉サービスにおける多様なニーズに対応できるグループホームの展開を計画しています。

将来的には、高齢化が進む利用者様への支援強化や、地域福祉を担う若手人材の育成にも力を入れ、誰もが自分らしく地域で暮らせる社会の実現に、少しでも貢献できればと願っています。

今回の取材に先立ち、合同会社やーる地域向け説明会への参加の機会を頂きました。各グループホームのホテルライクな居心地は、見やすく掲示された経営理念と行動指針、そしてその内容がスタッフの皆さん一人一人にきちんと行き届いているからこそ感じられるものなのでしょう。

前職の在職中に同友会に触れる機会が多くあったことから「立ち上げ当初から、同友会への入会は決めていた」と語る保田盛代表の言葉からは、地域からのニーズに応え、大きく広がっていく未来へのビジョンを強く感じられるものでした。

㈲ PLAN t PLAN・宮良高彰）

《会社概要》

合同会社やーる

代表社員　保田盛 健将 氏

〈八重山支部〉

所在地／石垣市平得743-1
ＴＥＬ／0980-87-9075
事業内容／障がい福祉サービス
（障がい者グループホーム）

中小機構の

カーボンニュートラル 相談窓口

相談無料

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出を削減し、
森林等による「吸収量」を差し引くことで温室効果ガスを実質ゼロにする取り組みです！

省エネ対策にお困りではないですか？

カーボンニュートラルをはじめとした環境への取組み、SDGsの推進など、
お悩みや疑問はありませんか？

例えば、
- ✓ 省エネ対策はどう取り組めばいいの？
- ✓ 取引先にアピールするにはどうするの？
- ✓ CO2排出量ってどうやって調べたらいいの？

中小機構では、カーボンニュートラルや脱炭素に取り組む
中小企業・小規模事業者に豊富な経験と実績を持つ専門家がアドバイスを実施します。

中小企業におけるカーボンニュートラル対策のメリット

1. 光熱費・燃料費の低減 (主にエネルギーコスト) の削減
2. 社会的信用、知名度の向上
3. ブランド力、商品価値の向上
4. 資金調達手段の獲得
5. 人材獲得力の強化 従業員のモチベーションアップ
6. 地球環境への貢献 SDGs達成への後押し

中小機構のカーボンニュートラル相談窓口をぜひご利用ください！

中小機構沖縄事務所 カーボンニュートラルアドバイザー

宮城 康智　小野 奈都美　小山 聡宏　上原 涼

相談方法
対面または
オンライン相談
Zoom
・
Microsoft Teams

相談時間
平日9時～17時
（1時間/回）
※地域本部によって窓口開設日が異なります。

申込み
事前予約制
パソコン、スマホからWEBページにアクセスしお申込みください。

詳しくはこちらから↓

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 沖縄事務所
沖縄県那覇市小禄1831-1　沖縄産業支援センター313-1
Tel：098-859-7566